

関東学院女短大

○杉山久仁子

阿部廣子

和田淑子

【目的】演者らは、先に高齢者のよりよい生活環境作りに関する具体的方策を検討する目的で、食事作りに関するアンケート調査ならびに調理器具の使用性に関する比較テストを行ってきた。今回は、器具を使わずに開封を行う市販包装食品の開封性に関して現状と問題点を検討した。

【方法】まず、高齢者（60歳以上21名）と本学学生（70名）を対象として、各種包装食品の利用頻度と開封性の良否について試料を提示して聞き取り調査を行った。次に、フィルムシート型包装食品のゼリー8種とヨーグルト6種を試料として、フィルムを剥離開封するために必要な力をテンションゲージにより測定した。ゼリーについては学生約200名を対象に開封のしかたおよび開封性の難易についての開封テストを実施し、開けづらさに関与する要因について検討した。

【結果】各種の市販包装食品のうち、菓子や調味料などの袋型・ジャムなどのねじ蓋型・豆腐やゼリーなどのフィルムシート型包装食品において、開封しづらいと感じているものが高齢者、学生共に多数であった。フィルムシート型包装食品の開封テストでは試料間に開封力の差があり、開封に要する力は開封の初期・中期・後期の3区分に分けられた。初期および後期において特に力を多く要するもの、全般的に力を要するもの、全般的に力をあまり要しないものの3通りであり、開封初期に力を要するものは開封テストにおいても開けづらいと判断されることが多かった。一方、開けづらさは力だけではなく容器の形状やつまみ部分の形状が関与しており、より開け易い包装への改良の必要性が認められた。